

マシンオブジェクトに定義されている手続き(コマンド実行)

- `exec!(String: コマンド文字列)`
 - 文字列をコマンド呼び出しとして発行する
 - ビックリマーク無しで呼び出すとブロックせずに非同期で実行が行われる
 - コマンドの実行結果がStringで返る(非同期で呼び出した場合は返らない)
- `exec_script_on(String: ローカルのシェルスクリプトのパス,String: シェルスクリプトの与える引数,string: シェルスクリプト実行時に設定するカレントパス)`
 - ローカルのシェルスクリプトファイルを指定された引数とともにリモートで実行する。カレントパスは第三引数で設定したものに設定される。与える引数が無い場合は空文字列を指定。カレントパスに特に指定がなければ"."を指定。
 - コマンドの実行結果がStringで返る
- `install_package(String: パッケージ名)`
 - yumやaptなどのパッケージシステムを用いて指定されたパッケージをインストールする。
 - デフォルトはyumが利用されるが、`change_platform("debian")`としておくとapt-get等の指定したディストリビューションに合わせたパッケージシステムが利用される
 - コマンドの実行結果がStringで返る

マシンオブジェクトに定義されている手続き(ファイル操作)

- `push_a_file(String: ローカルパス,String: リモートパス)`
 - 指定されたパスに指定したローカルファイルを配置する
- `pull_a_file(String: リモートパス,String: ローカルパス)`
 - テストノード上の指定されたファイルを、指定したローカルパスにコピーする
- `push_files(String: ローカルディレクトリ,String: リモートディレクトリ)`
 - 指定したリモートディレクトリ内に、指定したローカルディレクトリ内の全てのファイルを配置する。
ディレクトリは無視する。
- `pull_files(String: リモートディレクトリ,String: ローカルディレクトリ)`
 - リモートディレクトリ内の全てのファイルを、指定したローカルディレクトリ内にコピーする。
ディレクトリは無視する。
- `push_dir(String: ローカルディレクトリ,String: リモートディレクトリ)`
 - 再帰的にディレクトリをコピー
- `pull_dir(String: リモートディレクトリ,String: ローカルディレクトリ)`
 - 再帰的にディレクトリをコピー

マシンオブジェクトに定義されている手続き(設定ファイル編集)

- `get_config_file(String: リモートの設定ファイルのパス)`
 - 指定したリモート設定ファイルの内容を表現する`ConfigFile`クラスのインスタンスを返す
- `get_config_file`メソッドで取得した設定ファイルインスタンスに対して操作を行うことで、設定ファイルの編集を行う
- 編集結果は`save`メソッドを用いてリモートに書き戻す
- `ConfigFile`クラスのインスタンスメソッド
 - `ConfigFile#remove_col_by_str(String: 取り除きたい行に含まれる文字列)`
 - 指定した文字列を含む全ての行を取り除く
 - `ConfigFile#replace_col(String: 置き換えたい行に含まれる文字列, String: 置換後文字列)`
 - 指定した文字列を含む全ての行を、指定した文字列に置き換える。
 - `ConfigFile#append_str(String: 追加する文字列)`
 - ファイルの末尾に指定した文字列(複数行を認める)を追加する
 - `ConfigFile#save()`
 - インスタンスに対して行われた修正内容をリモートに書き戻す。
 - 呼び出しは全ての修正を行った後で、一回だけ行えばよい。